オアシス

文責：副学長
桑 原 雅 次

出雲芸術アカデミーだより　２０１９年１２月１１日発行　第２０号

師走となり、今年の干支亥年も終わりを迎え、新しい年がどの様になるのか気になる季節となりました。来年は、十二支の始まりである子（ね）年であり、オリンピックイヤーでもあります。気持ちを新たにする絶好の機会であるとともに、世界中から注目されるオリンピックが開催される年にあたり、今からワクワク感が満載です。

ところで、昨今の報道で気になることは、COP25（気候変動枠組条約会議）で地球温暖化をどう防ぐかを協議する場で、各国の立場が交錯し、なかなかまとまらないことです。そのような時に、スウェーデンの若干１６歳の環境活動家、グレタ・トゥーンベリさんの登場で環境問題に世界の人々がより注目するようになりました。訴えていることは、ごく当たり前のことのように思います。弊害となっているのは、国家間や大人社会の利害関係が優先されていることです。今回も目標値までたどり着けるのは夢のまた夢なのでしょうか…？

◎ アウトリーチが今年度も大詰め！

出雲フィルハーモニー・アウトリーチ事業が、「音楽と音楽家の出前２０１９」として、今年度も１０月から教育機関や各施設への訪問が始まりました。今年は、『金管楽器とピアノ』、『弦楽アンサンブル』、『打楽器アンサンブル』、『木管楽器アンサンブル』、『ヴァイオリン・フルート・ピアノ・声楽のアンサンブル』の５つの編成で募集したところ、市内各所から５８件の申し込みがありました。たくさんの申し込みに対して、諸般の都合ですべての施設に訪問できない現状に心苦しく思いますが、本アカデミーの事業に関心を持ってくださる施設が多いことに関係者一同大変喜びました。訪問する施設は、保育所５、幼稚園５、こども園１、小学校３、教育支援１、高齢者福祉施設５の合計２０施設です。すでに１３施設については訪問を終えていますので、感想を寄せていただいた施設からの声を一部ですが紹介したいと思います。

◆金管楽器とピアノ　♫♫♫

っております。今回は２～３歳児の保育公開に合わせてお願いをしましたが、たくさんの保護者の方にもぜひ聞いてほしかったなと感じました。目の前で「生の演奏」を聴かせていただき、貴重な体験をさせていただいたと同時に音楽や芸術に興味を持つきっかけとなったように思います。＜保育園から＞

**◆打楽器アンサンブル　♫♫♫